

調 査 の 概 要

1 調査の目的

男女共同参画に関する県民の関心、要望、意向などをとらえ、次期計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の項目

- (1) 男女共同参画全般について
- (2) 家庭について
- (3) 学校や家庭における子どもの教育について
- (4) 人権について
- (5) DVについて
- (6) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
- (7) 政治・行政・職場・地域などあらゆる分野における女性活躍の推進について
- (8) 地域活動への参画について
- (9) 防災対策について

3 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満 18 歳以上の男女個人
- (2) 標本数 2,000 人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

- (4) 調査方法 郵送法、オンライン調査法の併用
(調査票を郵送送付し、回答を郵送・オンラインで回収する)
- (5) 調査期間 令和 6 年 10 月 15 日～11 月 5 日

4 調査機関

株式会社マーケティングリサーチサービス

5 回収結果

標本数 (A)	2,000件
総回収数 (B)	637件
有効回収数 (C)	636件
うちオンラインで回収	249件
無効回収数	1件
うちオンラインで回収	0件
回収率 (B/A)	31.85%
有効回収率 (C/A)	31.80%

標本抽出方法

調査対象 : 千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の男女個人
 標本数 : 2,000人
 地点数 : 100地点 (市部 96地点・郡部 4地点)
 抽出法 : 層化二段無作為抽出法

[層 化]

1 県内を、次の11地域に分類した。

地域名	該 当 市 郡 (町村) 名
① 千葉地域	千葉市、市原市
② 葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③ 東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④ 印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、 印旛郡 (酒々井町、栄町)
⑤ 香取地域	香取市、香取郡 (神崎町、多古町、東庄町)
⑥ 海匝地域	銚子市、旭市、匝瑳市
⑦ 山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡 (九十九里町、芝山町、横芝光町)
⑧ 長生地域	茂原市、長生郡 (一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町)
⑨ 夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡 (大多喜町、御宿町)
⑩ 安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡 (鋸南町)
⑪ 君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

2 各地域内においては、
さらに市部、郡部に分け、層とした。

(注) ここでいう市とは、
令和6年4月1日現在市制施行の
地域をさす。



[標本数の配分]

各地域・市郡規模別の層における満18歳以上の人口（令和6年4月1日現在の推定数）に対して、2,000の標本数を比例配分した。

[抽出]

- 1 令和2年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査単位として使用した。
- 2 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\left[\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right] \text{を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。}$$

- 3 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、令和2年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
 - 4 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域・市郡別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域	市郡	市部	郡部	計
① 千葉地域		1,079,739	0	1,079,739
		400	0	400
		20	0	20
② 葛南地域		1,451,604	0	1,451,604
		540	0	540
		27	0	27
③ 東葛飾地域		1,315,573	0	1,315,573
		480	0	480
		24	0	24
④ 印旛地域		587,225	35,605	622,830
		220	20	240
		11	1	12
⑤ 香取地域		62,733	28,502	91,235
		20	20	40
		1	1	2
⑥ 海匝地域		133,587	0	133,587
		40	0	40
		2	0	2
⑦ 山武地域		134,651	38,539	173,190
		40	20	60
		2	1	3
⑧ 長生地域		76,158	49,972	126,130
		20	20	40
		1	1	2
⑨ 夷隅地域		45,629	13,664	59,293
		20	0	20
		1	0	1
⑩ 安房地域		97,331	6,264	103,595
		40	0	40
		2	0	2
⑪ 君津地域		278,240	0	278,240
		100	0	100
		5	0	5
計		5,262,470	172,546	5,435,016
		1,920	80	2,000
		96	4	100

(注) 上段は満18歳以上の人口（令和6年4月1日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
①千葉地域	千葉市中央区今井1丁目	20	②葛南地域	船橋市習志野台5丁目	20
	千葉市中央区蘇我1丁目	20		習志野市津田沼2丁目	20
	千葉市中央区登戸3丁目	20		習志野市泉町2丁目	20
	千葉市中央区都町6丁目	20		習志野市実籾本郷	20
	千葉市花見川区こてはし台4丁目	20		八千代市村上	20
	千葉市花見川区花見川	20		八千代市高津団地	20
	千葉市稲毛区稲毛2丁目	20		八千代市ゆりのき台3丁目	20
	千葉市稲毛区園生町	20		浦安市北栄1丁目	20
	千葉市若葉区小倉台1丁目	20		浦安市東野1丁目	20
	千葉市若葉区多部田町	20		浦安市日の出3丁目	20
	千葉市若葉区みつわ台2丁目	20	③東葛飾地域	松戸市金ヶ作	20
	千葉市緑区誉田町2丁目	20		松戸市小金	20
	千葉市緑区おゆみ野中央5丁目	20		松戸市新松戸1丁目	20
	千葉市美浜区打瀬1丁目	20		松戸市常盤平7丁目	20
	千葉市美浜区真砂3丁目	20		松戸市日暮2丁目	20
	市原市五井	20		松戸市馬橋	20
	市原市市原	20		松戸市西馬橋3丁目	20
	市原市青葉台6丁目	20		野田市野田	20
	市原市西国吉	20		野田市山崎	20
市原市千種6丁目	20	野田市日の出町		20	
②葛南地域	市川市新田2丁目	20		柏市旭町1丁目	20
	市川市南八幡5丁目	20		柏市小青田2丁目	20
	市川市若宮3丁目	20		柏市千代田3丁目	20
	市川市須和田1丁目	20		柏市西原4丁目	20
	市川市南大野1丁目	20		柏市松ヶ崎	20
	市川市相之川1丁目	20		柏市増尾4丁目	20
	市川市日之出	20		柏市藤ヶ谷	20
	船橋市市場2丁目	20		流山市南流山4丁目	20
	船橋市海神2丁目	20		流山市野々下3丁目	20
	船橋市本中山4丁目	20	流山市おおたかの森北3丁目	20	
	船橋市藤原7丁目	20	我孫子市若松	20	
	船橋市緑台1丁目	20	我孫子市中峠台	20	
	船橋市南三咲1丁目	20	鎌ヶ谷市丸山2丁目	20	
	船橋市前原西2丁目	20	鎌ヶ谷市東初富3丁目	20	
	船橋市三山1丁目	20	④地印域旛	成田市美郷台2丁目	20
	船橋市高根台7丁目	20		成田市滑川	20
	船橋市大穴南2丁目	20		佐倉市臼井田	20

地域	調査地点名	標本数
④ 印旛地域	佐倉市上志津	20
	佐倉市城	20
	四街道市四街道	20
	四街道市みそら3丁目	20
	八街市八街は	20
	印西市木刈3丁目	20
	印西市滝野2丁目	20
	白井市西白井1丁目	20
	栄町竜角寺台3丁目	20
⑤ 地香 域取	香取市佐原口	20
	多古町北中	20
⑥ 地海 域匝	銚子市南小川町	20
	旭市萬歳	20
⑦ 地山 域武	東金市山田	20
	大網白里市上貝塚	20
	横芝光町木戸	20
⑧ 地長 域生	茂原市緑ヶ丘4丁目	20
	長生村岩沼	20
⑨ 地夷 域隅	勝浦市勝浦	20
⑩ 地安 域房	館山市神余	20
	南房総市千倉町瀬戸	20
⑪ 君 津 地 域	木更津市真舟2丁目	20
	木更津市羽鳥野6丁目	20
	君津市外箕輪1丁目	20
	君津市常代3丁目	20
	袖ヶ浦市神納	20

報告書の見方

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分比の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 性・年齢別の分析において、サンプル数の少ない属性については、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (5) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数 (サンプル数)
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率 (P)		基数 (n)				
		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総数	636人	± 3.36	± 4.49	± 5.14	± 5.49	± 5.61
男性	336	± 4.63	± 6.17	± 7.07	± 7.56	± 7.71
女性	271	± 5.15	± 6.87	± 7.87	± 8.42	± 8.59